

# テストで、アタマをよくする!

4国-全国テスト

No.3



家に帰ると、ダイニングテーブルの上に、今朝の新聞が開かれたまま置いてありました。そこにあった自動車の広告のキャッチコピーが、コウタくんの目にとまりました。

さあ、ひとつ先の未来へ!!

作問の工夫

「自動車の広告」という、子どもが一度は見ただことのあるものが題材になっていることと、より生き生きとアタマが動いていきます。

作問の工夫

「コウタくん」という、テストに取り組む子どもと同年代の少年のつもりで読み進めることで、子どもがテストの世界に入りやすくなります。

(無断転載・複製を禁ず)

コウタ 「自動車の広告か……。キャッチコピーの最後の「へ」は「に」でもいいんじゃないかなあ……。」

つぶやいたコウタくんは、さっきの話を思い出して、メモ用紙に書きならべてみました。

さあ、ひとつ先の未来へ!!  
さあ、ひとつ先の未来へ!!

作問の工夫

登場人物の疑問を通して、この後どのようにアタマを使うのか、という準備をします。登場人物が取り組んでいることと同じように子どもが取り組むことで、子どもも動きます。

コウタ 「この「へ」は「に」でもほとんど意味は同じように思えるなあ。どうして「に」ではなくて「へ」なのだろう?」

問三 広告などのキャッチコピーは、短い言葉で、見る人に強い印象を与えようとしています。「さあ、ひとつ先の未来へ!!」というキャッチコピーをつかった人は、「に」と「へ」のどちらを使うか、いろいろ考えたかもしれせんね。

さあ、ひとつ先の未来へ!!

コウタくんが言う「どうして「に」ではなくて「へ」なのだろう?」という疑問について、あなたも考えてみましょう。そして、その疑問についてのあなたなりの答えを、答えを書くらんに書きましょう。

作問の工夫

自分の考えを言葉で表現する(とくにチャレンジします。子どもが創造性・想像力を発揮します。テストが終わった後も「考える」を続けることができます。

日能研のテストは、昨日までの既知を測るだけでなく、子ども達が未知や想定外と出会い、「これから先、どんな学びを広げていけるか」という「明日へのステップ」を見つけるための、未来志向型テストです。

「動く! 動く! アタマが動く! これって、アタマをよくする、ってこと?」というテスト。

「アタマがいい」人。具体的にどんなアタマをイメージしますか? 「いろいろなことをたくさん知っている」「物事の理解が速い」「独創的なアイデアを思いつく」「機転が利く」などが全部? 「いいアタマ」が実際に意味するものは、時代と共に変化しているのではないのでしょうか。未来が過去の延長線上にあると信じられていた時代。さまざまな問題にはすべて前例があり、過去の事例を記憶して再現すれば問題は解決する。その時代は「知識がたくさんつまったアタマ」がいいアタマだったわけです。

現代。未来はもう過去からの延長線上に定まらず、不確定で不安定。前例のない問題、まだ答えのない問題が当たり前。蓄えてきた知識も積み重ねてきた経験も、そのままでは役に立たない。その問題と向き合い、答えをつくり出し、未来をつくっていくのは、「たくさんつまったアタマ」よりも「よく動くアタマ」。これが、現代、そして未来に求められるいいアタマなのです。

日能研「全国学びテスト」は、「未知。と出会うチャレンジの場」。「テスト」と言えば、子ども達がすでに持っている「既知」を測るものというイメージが強いですが、でも、日能研のテストは昨日までの既知ではなく、未知と出会い、明日へのステップを見つける子ども達のためのもの。「このくらいできている」という到達や達成よりも、「これから先、どんな

学びを広げていけるか」という新しい視点でつくられた、学びを育てるテストです。

問題文がかなり長い。でも、おもしろい。書かれていることをしっかりと読む、答えを考える。その答えが必ずしも1つではないとすれば……。知っていることを書くだけではない。自分が「考える」ことは、子ども達にとって大切な体験であると同時に、ワクワクする冒険になる。いままでとは違う学びが刺激され、アタマが生き生きと動き出す。それは、「よく動くアタマ=いいアタマ」「テストを仲間にする」への第一歩。だから。

「アタマをよくする、を始めよう! 日能研「全国学びテスト」で。

小学校2~5年生なら、どなたでも参加できます!

# 全国学びテスト

6月23日

小3

小4

小5

7月7日

小2

参加無料

